

令和元年6月17日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26503018

研究課題名(和文)台湾先住民の「民族」自治：中国と周辺地域における脱植民化

研究課題名(英文)"National" Autonomy in Taiwanese Indigenous Peoples: The Decolonization in and around China

研究代表者

中村 平 (NAKAMURA, Taira)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：80632116

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：主たる研究成果として、論文6件、図書出版16件等を見た。代表者は『植民暴力の記憶と日本人：台湾高地先住民と脱植民化の運動』を単著として上梓した。これは、台湾高地先住民における脱植民化が、日本と中国による植民暴力の記憶が周囲のマジョリティに分有されることと、植民主義的な認識論の解体の両輪の下で進むとした。2016年には、台湾総統が台湾先住民に対して過去の不正義を謝罪した。それにより前景化した「轉型正義」(transitional justice)の議論は、代表者がこれまで研究してきた植民暴力の検討を含めた脱植民化の議論を活性化し、さらにマジョリティの責任という問題系を導くものであると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民主義と脱植民化が課題となるなか、民族をめぐるマイノリティの歴史経験の分有、植民化・植民主義のメカニズムについて、台湾先住民、中国と周辺地域のムスリム、インドにおけるチベット難民の具体的なフィールドから明らかにした。帝国日本の遺産が、帝国が拡張していった各地で問題となる中、台湾先住民が植民主義克服の脱植民化の自治運動を創り出している点に、周囲のマジョリティが思考し取るべき方向性の有力な選択肢を提出しえた。

研究成果の概要(英文)：We accumulated 6 academic articles and 16 books as major results of this study. The representative published "Japanese and Memories of Colonial Violence: Decolonial Movement among Mountain Taiwanese Indigenous Peoples" as a single author. This book insists that the decolonization among mountain Taiwanese indigenous peoples proceeds not only by sharing memories of colonial violence done by Japanese and Chinese, but also under disassembling the colonial epistemology. President of Taiwan apologized to Taiwanese indigenous peoples in 2016 on the past injustice to indigenous peoples committed by past states. This foregrounded the discussion on the transitional justice and also activates the discussion of decolonization including the analysis of colonial violence, which the representative of this study has been accumulated. Those discussions will lead us to the problems of the responsibility of majority.

研究分野：人類学、日本学、思想史

キーワード：植民主義 脱植民化 台湾先住民 中国少数民族 回(民族) チベット(民族) 民族自治 植民暴力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

代表者は台湾先住民タイヤルにおける脱植民化の問題系について、植民暴力の記憶の分有という観点から研究を蓄積してきた。植民主義と脱植民化は、植民地近代性の議論と共に人文社会科学において新しい問題系であり、本研究は、中国と周辺地域の脱植民化について、台湾先住民の自治運動と思想の検討を含め、チベット難民と回・ムスリムの専門家の二人を分担者として招き、それらの実態と実態を記述する理論的諸問題について研究しようとするものである。

2. 研究の目的

台湾先住民、チベット難民、回・ムスリムについて、「民族」自治運動や宗教のあり方、文化運動に着目してそれらを脱植民化との関連で明らかにする。同時に、各国の民族と難民政策、民族とは何かという認識論の解明を行いつつ、民族をめぐる民主主義と自治のあり方を整理し検討する。植民主義の暴力がいかなるものとして民族や諸集団に現前し到来しているかを、マジョリティの責任を思考しつつ記述する。

3. 研究の方法

主たる方法は人類学的フィールドワークにより、諸運動の歴史や思想については関連出版物や発行物、史料を収集して研究を行った。主な調査地は、台湾、中国、インドである。

4. 研究成果

主たる研究成果として、分担者を含め、以下に挙げたように、論文6件、学会発表15件、図書出版16件を見た。代表者は『植民暴力の記憶と日本人：台湾高地先住民と脱植民化の運動』を、分担者の木村は『雲南ムスリム・ディアスポラの民族誌』を単著として上梓した。前者は、台湾高地先住民における脱植民化 (decolonization) が、日本と中国による植民暴力の記憶が周囲のマジョリティに分有されることと、植民主義的な認識論の解体の両輪の下で進むとした。代表・分担者共に、現職場への就職活動や所属機関の変更などが相次ぐ中で、精力的に研究報告と出版、各種研究会と書評会を行った。代表者は所属機関で、呉叡人氏(中央研究院台湾史研究所)による「帝国のはざまに」と題する講演会を主宰した。内容は、台湾の独自の位置を帝国・植民主義との関連で捉えるものであり、民主化と脱植民化という問題に重なるものであった。研究期間中の2016年には、台湾総統が台湾先住民に対して、過去の不正義を謝罪するという出来事が起こった。それにより前景化した「轉型正義」(transitional justice)の議論は、代表者がこれまで研究してきた植民暴力の検討を含めた脱植民化の議論を活性化し、さらにマジョリティの責任という問題系を導くものであると考えられ、この点についての検討を開始している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

中村平 2018 「『歴史と記憶』に学ぶこと：台湾高地での聞き書きから考えるさまざまな『あいだ』」『広島同人誌 あいだ』1: 26-32、査読無

Tatsuya YAMAMOTO, 2017, "Lyrics Matter: Reconsidering Agency in the Discourses and Practices of Tibetan Pop Music among Tibetan Refugees," *Revue d'Etudes Tibétaines*, 40: 126-152、査読有

山本達也 2017 「近代経験のアリーナとしての歌手の身体：チベタン・ポップ制作に見る『屈折する近代』と嗜好品の動態性」『嗜好品文化研究』2: 40-48、査読有

山本達也 2015 「かたちを変えていく歌詞-チベット難民社会におけるチベタン・ポップの作詞実践を事例に」『国立民族学博物館研究報告』40(2)、311-347 頁、査読有

山本達也 2014 「マントラを商品化する：チベット難民社会を取りまくワールド・ミュージック化の試み」『宗教と社会』20: 33-46、査読有

木村自、篠崎香織ほか 2014 「日本華僑華人学会設立 10 周年記念シンポジウム『華僑華人研究の回顧と展望』」『華僑華人研究』11: 70-75、査読無

[学会発表](計15件)

中村平 2018 「コメント：松田京子『台湾原住民女性と「帝国」日本：1930年代の「助産婦」養成事業をめぐる』、台湾史研究会・台湾歴史学会共催シンポジウム「東アジアの中の台湾 過去・現在・未来を考える」、関西大学

中村平 2018 「台湾の先住民とジェンダー・家族・国家関係」、アジア法学会シンポジウム「アジア各国における法とジェンダー」、名古屋大学

中村平 2016 「コメント：郭雲萍『被沈没的民族 泰雅族 Qara 部落的遷移流転』」、台湾史研究会・台湾歴史学会共催シンポジウム「東アジアの近代化と台湾社会の変遷(東亞近代化と台湾社会變遷)」、関西大学

中村平 2015 「太魯閣族の去殖民與日本の植民地責任」(トゥルク民族の脱植民化と日本の植民地責任) 第8回日台原住民族研究フォーラム・トゥルク対日戦争史国際シンポジウムにて発表、花蓮：太魯閣国家公園布洛灣 (Brugan) 管理处 (中国語)

中村平 2014 「台湾北部山地原住民の土地與生活的圈地運動：日本殖民國家 - 資本下的『理

蕃』(台湾北部高地先住民の土地と生の囲い込み：日本植民国家 - 資本による「理蕃」)
2014 年台湾先住民族国際学術シンポジウムにて発表、台北：中央研究院民族学研究所(中国語)

Tatsuya Yamamoto, 2017, "Conjunct Citizenship: Tibetan Refugees Encountering Multiple Actors," 10th International Conventions of Asian Scholars, the Chiang Man International Exhibition and Convention Centre (Thailand)

Tatsuya Yamamoto, 2016, "Pitfalls in Appropriating Human Rights Discourses?: a Case Study of Tibetan refugees in India and Nepal," International sociological association, ウィーン大学

Tatsuya Yamamoto, 2015, "Selling Healing: A Case study of Tibetan chanting Cd production in Kathmandu." 9th International Convention of Asian Scholars、アデレード・コンベンションセンター、オーストラリア

YAMAMOTO, Tatsuya, 2014 "Struggle to be popular: a case study of Tibetan pop singers in exile," The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Makuhari Messe, Chiba

山本達也 2014「グローバル資本主義を背景とした宗教実践の新展開：南アジア芸能の場合」宗教と社会学会、天理大学

木村自 2018「華人ムスリムを「真面目」に生きるということ 雲南ムスリム移民たちと「宗教」実践」東アジア人類学研究会第五回研究大会、東北大学

KIMURA Mizuka, 2017, "An Emergence of Blind Culture?: Socio-Cultural Contexts of Proliferation Of Blind Massage in Taiwan," East Asian Anthropological Association, Chinese University of Hong Kong

木村自 2015, "Islamness and Chineseness of Chinese Muslim Diaspora: Analysis from their Marriage and Death Practices" IUAES Inter-congress 2015, Thammasat University, Bangkok

木村自 2015, "Panglong" as a Third Space: the Location of Cultures among Yunnanese Muslim Diaspora in the Colonial and Postcolonial Burma/Myanmar" 華人穆斯林的離散：文化認同、性別与宗教伝統 国際学術研討会、香港中文大学、香港

Kimura, Mizuka 2014, "Different Contexts of Benevolence and Ethnic Interaction in the Local Community: Preliminary Report of the Charitable Activities in Myanmar," The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Makuhari Messe, Chiba

[図書](計16件)

中村平 2019「家族-国家日本の殖民暴力とトラウマ：脱殖民化と『他人事でなくなる』」
田中雅一・松嶋健編『トラウマ研究2 トラウマを共有する』、京都大学学術出版会、598頁、415-441頁

NAKAMURA, Taira. 2019 "Taiwanese Indigenous Truku People's Decolonization and Japanese Colonial Responsibility," Comparative Studies on Japanese and Chinese Culture: 60th Birthday Memorial of Professor SATO Toshiyuki, Tokyo: Hakuteisya, pp.242-258.

中村平 2018『殖民暴力の記憶と日本人：台湾高地先住民と脱殖民の運動』大阪大学出版会

中村平 2018「台湾高地先住民の土地と生の囲い込み：日本植民国家 - 資本による人間分類と『理蕃』」
今西一・飯塚一幸編『帝国日本の移動と動員』大阪大学出版会、83-110頁

中村平 2017「台湾山地原住民土地與生活之圈地圈生運動：日本殖民國家 - 資本下的人群分類與『理蕃』」
官大偉編『民族、地理與發展：人地關係研究的跨學科交會(順益台灣原住民博物館二十週年紀念叢書)』台北：順益台灣原住民博物館、105-129頁

Tatsuya Yamamoto and Tomoaki Ueda (eds), 2019, Law and democracy in Contemporary India: Constitution, Contact Zone, and Performing Rights, Palgrave Macmillan, 222

山本達也 2018「作る」と「バクする」の狭間で：チベタン・ポップをめぐる権利言説と実践から見る難民社会の今」『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』臨川書店、175-202頁

山本達也 2017「演奏空間という場 立ち上がるリミナリティとチベット難民社会の日常性」
秋津元輝・渡邊拓也編『せめぎ合う親密と公共』京都大学学術出版会、326(担当箇所 263-287)

山本達也 2017「民族自治と完全独立、そしてその狭間-チベット難民の今」『先住民からみる現代世界-わたしたちの〈あたりまえ〉に挑む』昭和堂、118-120頁

山本達也 2015「ホスト国インドへの接近：チベット難民運動の新展開」
石坂晋哉編『インドの社会運動と民主主義』昭和堂、310頁

山本達也 2015「政治的締めつけと想像力：ネパール在住チベット難民を取りまく政教的状況」
櫻井ほか編『社会参加仏教：アジアにおける宗教と政治』北海道大学出版会、440頁

YAMAMOTO, Tatsuya, 2015, "Selling Healing: A case study of Tibetan Chanting CD production in Kathmandu," Charles Ramble and Ulrike Roeslar eds. Tibetan and Himalayan Healing, Vajira Books, 757

木村自 2017 『華僑華人の事典』丸善出版、593 頁

木村自 2017 「国家のたまし絵 中国人ムスリム移民が反転する国家像」山本信人監修、
宮原曉編 『東南アジア地域研究入門2 社会』慶応義塾大学出版会、336 頁（うち担当頁
は 23-44 頁）

木村自 2016 「宗教 台湾化とグローバル化」赤松美和子・若松大祐編 『台湾を知るため
の 60 章』明石書店、375 頁（うち担当頁は 268-272 頁）

木村自 2016 『雲南ムスリム・ディアスポラの民族誌』風響社、276 頁

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等「到来する暴力の記憶の分有」

<http://www.geocities.jp/husv83/>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：山本達也

ローマ字氏名：YAMAMOTO, Tatsuya

所属研究機関名：静岡大学

部局名：人文社会科学部

職名：准教授

研究者番号（8 桁）：70598656

研究分担者氏名：木村自

ローマ字氏名：KIMURA, Mizuka

所属研究機関名：立教大学

部局名：社会学部

職名：准教授

研究者番号（8 桁）：10390717

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。